第２次飛騨市地域公共交通計画の全体構造

基礎調査、評価検証の結果からみえる本市の特徴や課題から、計画の方針、目標、事業までの流れを示します。

計画の目的

- 市民生活の基本となる移動を保障する
- 地域公共交通の持続可能性を高める

前提

- 人口減少により、利用者の絶対数が減少し、担い手不足が深刻化していく中で、地域公共交通は、存続の危機に瀕している。
- 本計画では、この状況を真正面から受け止めつつ、市民生活に必要不可欠な移動の足を、地域公共交通の多様な担い手との前向きな協働（地域経営の視点をもったアクションを強化）を通じて、守り続けていくことを目指す。

現状・課題

基礎調査

- 高校、総合病院、商業施設は、人口の多い古川・神岡地域に集中している
- 地域公共交通がもっとも対応すべき移動は高齢者の通院・買い物
- 市域に対して、可住地面積の割合が小さい。谷筋に沿って広く人口が分布している
- 少子化・高齢化が進んでいる
人口減少が進み、老齢人口も減少に転じている
- 特に神岡エリアにおいて運転手不足が深刻化している
- タクシーの利用者が減少しており、事業継続が困難に
- 市の財政はほぼ横ばいで推移している
- 政策指針において、地域公共交通は、安心して暮らせる公共サービスであると同時に、移動の確保を通して「いつまでも　みんなが楽しく　心豊かに暮らせる」状態に寄与することが求められている
- 観光で年間約100万人が来訪している

評価・検証

- 地域公共交通のカバー人口率は、高い水準である
しかし、一部の地域でサービスレベルが低くなっている
- 市営バスの利用者数は全体で減少傾向にある
目標値の達成状況は、路線ごとに差異がある
利用が極端に少ない路線が発生している
- 地域公共交通の事業費は膨らんでいる
その分、収支率は下がっている
- 利用促進・啓発事業は実施されているが、成果の測定が不十分

計画の方針

1　運行に関する方針

- 市民生活の基本となる移動を確保する
- 外出したい時に利用しやすい便を提供することに努める
（ダイヤ、地域公共交通へのアクセス距離、運賃）

2　持続性に関する方針

- 多様な担い手が活躍し続けられる環境をつくる
（同時に、新たな担い手の確保に取り組む）
- 効率的な運行を目指す
（小規模化、代替手段への移行を推進）
- 地域全体での事業費削減に取り組む
（業務の共同化等の推進）

3　利便性向上・利用促進に関する方針

- 上位計画と整合し「いつまでも　みんなが楽しく　心豊かに暮らせる」まちづくりに寄与する地域公共交通を目指す
- 初めての人でも利用できる環境を整備する
（DXの推進、市民にも来訪者にもわかりやすい案内）

計画の目標

目標１

市民生活の基本となる移動を確保する
※交通空白ゼロ

目標２

地域公共交通の利用者数を維持する
※エリア別利用者数
※飛騨市内のタクシーの利用者数

目標３

地域公共交通の担い手を確保する
※タクシーの運転者数、車両台数

目標４

地域公共交通のコストパフォーマンスを可能な限り維持・改善する
※１乗車当り/人口1人当りの事業費
※営業収入

目標５

お得な乗車券の販売数を増やす
※各種乗車券の販売枚数
※利用促進・啓発事業の実績

目標６

地域公共交通の交通分担率を高める
※通学の送迎分担率（独自調査）
※非自動車分担率（国勢調査）

目標７

地域経営の視点を持って本計画を推進する
※公共交通会議の事業者部会の実施回数

施策

1　地域公共交通の整備・運行

(1)地域公共交通の運行
（幹線、地域路線、市街地線、小規模送迎）
※路線毎の見直し
小規模化・代替手段への切り替えの推進
(2)その他の移動手段の支援
※タクシー事業支援制度の設計・導入

2　持続性向上

(1)担い手事業の持続性の確保
※ドライバーズバンクの構築
配車システムの共同化
お出かけ相談センターの設置
(2)車両の更新と整備
※計画的な車両の確保
車両のダウンサイジングの推進

3　利便性向上

(1)交通結節点の待合環境の改善・維持
(2)企画乗車券等の発行
※乗車券のデジタル化の推進
(3)地域公共交通の基本的な情報発信
※バスロケーションシステムの導入

4　利用促進

(1)市民の日中利用の促進
①未利用者に対する情報発信
②利用者に対する情報発信
※企画チケット
(2)通学利用の促進
(3)来訪者の利用の促進
①初めてでも利用できる情報提供
②観光客向けの情報提供
※デジタルサイネージの活用

5　評価・改善

(1)地域公共交通の評価・改善の実施
※公共交通会議の事業者部会の定例化
地域の声を踏まえた改善の継続
(2)先進的な手法や技術の導入検討
※名古屋大学との連携の継続